

修士論文（又は特定課題研究）要旨 （日本語）

題 目

キャリア・コンサルタント向けキャリア・コンサルティング補助ツールの開発

要 旨

近年、キャリア・コンサルタントの社会的必要性が高まっている。現在、厚生労働省が指定するキャリア・コンサルタントの養成能力評価機関が 10 団体を数え、有資格者は 2011 年には 70,000 人を超えている。しかし、キャリア・コンサルタントに期待する内容は幅が広がり、深まっている一方、現在のキャリア・コンサルタント達はその期待に応えきれていないという現実がある。

筆者は今回、厚生労働省の報告書から彼らへの期待と現状とのギャップ、また養成能力評価機関等で現在行われている講習会を調査した。そのうえで学習の場が少ない知識・情報を抽出し、これらの情報を集約した補助ツールを開発することで、彼らの資質向上に貢献し、クライアントニーズに対応できるスキル・知識を身につけることができると考えた。

上記調査の結果、彼らの活動領域によって重視される必要知識に差があること、養成能力評価機関によって行われている研修は、内容、量ともに差があることが分かった。さらに人事労務の法律知識に関する講習会は、いずれの機関もほとんど実施されていないことが分かった。そこで、今回開発する補助ツールではキャリア・コンサルティングの基本ステップに関わる知識を全体的に網羅したうえで、人事労務（ワークライフバランスを含む）に関する法律知識、彼らが組織内で意識啓発を行うために必要な組織に関する知識、また彼ら自身の自己研鑽やキャリアアップに関する情報を集約することとした。（第 3 章）

なお補助ツールの設計・開発は、インストラクショナル・デザインの基本プロセスである ADDIE モデルに基づき実施した。補助ツールは業務のなかで必要なときにすぐ利用できるようにするため、目次機能を目的別と相談過程のステップ別の 2 種類を用意することにした。また、コルブの経験学習モデルのなかにある「省察」を促す目的で補助

ツールの1機能として自己チェックリストを加え、自身のコンサルティングを振り返り、知識が不足している点を確認できるようにした。自己チェックリストは、特にクライアントから質問されることの多い内容とコンサルティングを行う際の前提知識である 25項目に絞って質問項目を作成した。

作成したモックアップを、実務者を対象に形成的評価したところ、自己チェックリストと情報サイトとの連動の必要性と、自己チェックリストの質問内容をコンサルティングで起こりうる具体的表現が良いとの意見が挙げられた。更に彼らのキャリアアップに関する情報提供の充実や、掲示板を通じて有用なセミナーの情報共有を求める意見があった。開発フェーズ（第5章）では、上記評価を踏まえてプロトタイプの開発を行い、専門家レビューを行った。

本研究では、現状のキャリア・コンサルタントに不足する知識・スキルを抽出し、学習機会の少ない内容を包含した実務補助ツールを作成することができた。これは、あるべき姿に対して現状を理解し、その差を埋めるために学習するという研修の定義に沿ったものである。

今後、更に多くの実務者に使ってもらうことで修正を重ねながら、頻繁に最新情報を更新しながらユーザーニーズに応じていく必要がある。更に自己チェックリストによるチェック結果を多く集めることで、活動領域毎での特徴を分析し、コンピテンシーリストを作成することで、彼らが異なる領域で活動を開始する際の知識確認として活用できる可能性がある。また今回の開発工程は、事業部制の組織において管理部門で求められる知識スキルが事業部ごとに差異がある場合でも一定水準を満たすための学習ツール開発に応用することも可能であると考えられる。（第6章）